



省略

## ■子どもの権利について考える

皆さんは「**子どもの権利条約**」という条約を知っていますか？ この条約は、世界中の子どもたちが、安全な環境で、安心して、自分に自信をもって生活ができるために守られるべき権利について定めた世界の合意であり、日本を含む批准国の政府に、その実施を求める法的拘束力のある国際法です。1989年11月20日国連総会第44回会期において全会一致で採択され、日本は1994年に批准しています。子どもの権利条約の基本的な考え方は、次の4つ（4つの原則）で表されます。それぞれ、条文に書かれている権利であるとともに、あらゆる子どもの権利の実現を考える時に合わせて考えることが大切な「原則」とであるとされています。これらの原則は、日本の子どもに関する基本的な法律である「こども基本法」にも取り入れられています。

### 【4つの原則】

#### ○差別の禁止（差別のないこと）

すべての子どもは、子ども自身や親の人種や国籍、性、意見、障がい、経済状況などどんな理由でも差別されず、条約の定めるすべての権利が保障されます。

#### ○子どもの最善の利益（子どもにとって最もよいこと）

子どもに関することが決められ、行われる時は、「その子どもにとって最もよいことは何か」を第一に考えます。

#### ○生命、生存及び発達に対する権利（命が守られ成長できること）

すべての子どもの命が守られ、もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援などを受けることが保障されます。

#### ○子どもの意見の尊重（子どもが意味のある参加ができること）

子どもは自分に関係のある事柄について自由に意見を表すことができ、おとなはその意見を子どもの発達に応じて十分に考慮します。

このような原則を見て、みなさんはどのように感じましたか。どれも当たり前のことですが、日本を含む世界の国々を見た時、これらの原則が十分に満たされているか疑問に思うことはないでしょうか？ 例えば、皆さんが普通に受けている教育についても国によっては十分に保障されていないことがあります。また、日本においても時々、子どもが虐待を受けて尊い命を失うような事件が起きています。

その他、皆さんが過ごす学校や地域・社会に目を向けた時に疑問に思うことや問題に思うことはないでしょうか？ 社会は大人だけの考えでつくるものではありません。**大人には子どもの最善について考える義務があるし、子どもには意見を述べる権利もあります。つまり、子どもも社会の一員として尊重されなければなりません。**少し話は変わりますが、学校生活についても当然みなさんの意見が尊重されなければならないし、意見を述べることは権利として保障されなければなりません。6月には生徒総会が実施されます。「誰もが楽しく通える山手台中」を目指して**活発な意見交流ができることを願っています。**



差別の禁止



子どもに  
もっともよいことを



生きる権利・  
育つ権利



意見を表す権利

## ■教育実習が行われています



音楽の研究授業（2年生）



英語の研究授業（1年生）

本校の卒業生が教育実習を行っています。3週間の実習期間中に教科指導や生活指導などを実際の教育現場で学びます。今日は実習生の研究授業を行いました。音楽では「夏の思い出」を題材にして、楽曲の反復と変化や音楽記号に注目しながら作者が曲に込めた思いをグループで話し合っていました。また、英語の授業ではクイズやインタビューなどの活動を取り入れながら身近な人のことや自分ができることを伝える学習をしていました。

どの授業も生徒が活動する場面が多く設けられており、みんな楽しそうに取り組んでいました。  
(5月26日 火曜日)

## ■体育大会の練習が行われています



全校生によるラジオ体操



ムカデリレー



バトンパスの練習



台風の目

体育大会に向けて学年練習・全校練習が順調に進んでいます。クラス・ブロックの仲間と協力して体育大会当日に練習の成果が発揮できることを楽しみにしています。

## 「良いところに気付く人になりたい」

私は自分のことが好きではありません。なぜかという、人の嫌なところばかり気付いてしまうからです。

人は誰も良いところがあると思うのですが、「あの人のこと、教えて」と言われると、良いところよりも悪いところの方が先に思いつきます。

それに人の悪口はほとんど言えるのですが、誉め言葉はなかなか出てこないのです。どうして誉め言葉は難しいのか本当に自分でも不思議です。

この間のことです。友達の良いところに初めて気が付きました。私が、ポツンとしていると、向こうから声をかけに来てくれたのです。その時、優しくしてくれた相手の気持ちが分かったのです。私は、自分のことが少し好きになれました。そして、人の悪いところばかりを見ていた自分を反省しました。

これからは、何のためらいもなく、誉めることの出来る人になりたいです。

この文章は、みなさんと同じ年頃の中学生（13歳）が書いた文章です。皆さんは読んでみてどのようなことを感じましたか。私も同じような経験があるとか、筆者の考えに共感するところがある…など感じることは多いかと思います。

思春期真っ只中の皆さんには、できるだけたくさんの文章（新聞記事や読書などを通して）を読んだり、たくさんの人と関わる中で、物事に対する多様な見方・考え方に触れたりする機会をつくって欲しいと思います。その積み重ねが、自分自身の成長に繋がると思います。

校長 筒井 啓介